

大分大学教育学部附属特別支援学校改革プラン〈4つの柱〉

働き方改革



◇会議等の改善⇒

経営会議の設置と運営委員会の充実 / 職員会議を職員連絡会へ移行 / 各種委員会の統合 等

◇業務の見直し精選⇒

学習評価2期制(前・後期)の導入 / 公開研究会の隔年開催と学習指導案の簡略化 等

◇就業時間の管理⇒7:00以降の出勤、19:30までの退勤[タイムレコーダーの導入]

◇休暇の取得⇒変形休取得率100%(年間12日)

積極的地域貢献

◇附特セミナーの開催⇒

地域の小、中学校等の先生方を対象とした合理的配慮や授業構想等についての研修実施

※セミナー講師・招聘した大学の先生 / 本校教員 / 本校のOB教員

◇センター的役割の強化⇒

学部主事3名と特別配置した専任コーディネーターによる巡回相談体制の確立

◇研修協力⇒

- ・市教委主催の特別支援教育研修や地域の幼、小、中学校の校内研修への講師派遣
- ・県教育センター研修(初任者研修やフォローアップ研修等)への提案授業の協力や助言者の派遣

教育実習の改善

☆教育実習生が“やっぱり教員になりたい” “附属特別支援学校で働きたい” と思える実習に

◇事後研究会の改善⇒

授業者への意見質問形式(まな板の鯉形式)から共に考えるワークショップ形式への移行

◇改善授業の充実⇒

指導案を伴う授業数を減らし、事後研究会の意見を踏まえた改善授業の充実

開かれた学校づくり(グローバル人材の育成やインクルーシブ教育の構築に向けて)

◇地域資源を活用した授業実践⇒

公民館や図書館での作業製品販売やメンテナンス作業

◇地域住民等との連携⇒

地域のお祭りへの参加(作業製品販売)や地域の方との集会活動(小学部七夕集会)

◇国際交流⇒

大分大学の留学生との交流活動の実施

◇他校との交流及び共同学習の充実⇒

附属中学校との連携(中学部) / 大分西高との連携(高等部)